



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

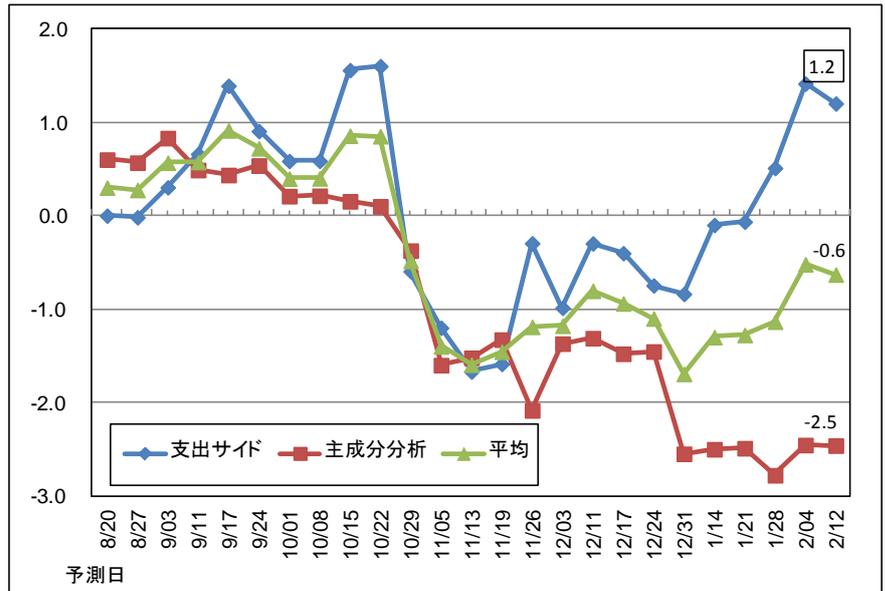
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年2月12日)

ポイント

- ▶今回(2/4-2/12)は、1月の景気ウォッチャー調査、12月の消費総合指数、機械受注、情報サービス業売上高、景気動向指数及び国際収支状況が更新された。
- ▶これらは、民間最終消費支出、民間企業設備及び純輸出の予測値に影響を与える。
- ▶12月の消費総合指数は前月比+0.3%上昇し3ヵ月連続のプラス。結果、10-12月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から小幅下方修正された。
- ▶12月の景気動向一致指数は9ヵ月ぶりに前月比改善。1月の結果次第で、景気の基調が「下げ止まり」に変更される可能性が高い。このようにCIの結果からも景気の局面変化が示唆されている。
- ▶今週のCQM(支出サイド:最終予測)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+1.2%と予測。3週連続でプラス成長を予測しており、景気はすでに後退局面を脱した。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q4 (%、前期比年率換算)



<CQMの10-12月期成長率最終予測は3週連続でプラス。12月の景気動向指数も局面変化を示唆。>

今回(2/4-2/12)は、1月の景気ウォッチャー調査、12月の消費総合指数、機械受注、情報サービス業売上高、景気動向指数及び国際収支状況が更新された。これらは、民間最終消費支出、民間企業設備及び純輸出の予測値に影響を与える。

12月の消費総合指数は前月比+0.3%上昇し3ヵ月連続のプラス。事前予測を上回ったが、過去データが3ヵ月にわたって下方修正されたため、10-12月期の実績値は前期比+0.9%となった。結果、10-12月期の実質民間最終消費支出の予測値は先週から小幅下方修正された(前期比+1.0%→同+0.9%)。

12月の景気動向一致指数(CI)は9ヵ月ぶりに前月比改善した。景気の基調判断するための3ヶ月移動平均も7ヵ月ぶりの上昇。内閣府は基調判断を3ヵ月連続で「悪化」と据え置いているが、1月の3ヶ月移動平均値が上昇すれば、局面が「下げ止まり」に変更される可能性が高い。このようにCIの結果からも景気の局面変化が示唆されている。

民間企業設備投資の先行指標であるコア機械受注は、12月に前月比+2.8%増加した。3ヵ月連続のプラスとなったが、10-12月期実質民間企業設備の最終予測値は先週から横ばい(前期比-1.6%→同-1.6%)となった。

12月の経常収支は2ヵ月連続の赤字となった。季節調整値は黒字となったが前月比-56.6%減少した。結果、10-12月期の実質純輸出の最終予測値は先週からほぼ横ばい(6.744兆円→6.733兆円)となった。

今週のCQM(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を、内需は拡大するが、純輸出は小幅縮小するため前期比年率+1.2%と予測(先週は+1.4%)。3週連続でプラス成長を予測しており、景気はすでに後退局面を脱したといえよう。14日に10-12月期のGDP1次速報値が発表されるため、今回が同期の最終予測となる。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550